






多くの先天異常は、“いのち”に関わることはありませんが、一部の異常は“いのち”に関わります。胎児診断の実績をもつ医師、技師の高精度なスクリーニング（診断）などで、母子にとって最善の医療が施されるよう配慮します。より詳しい検査をしたい妊婦様、「出生前診断も受けるけれど他の病気も心配」という方におすすめです。

- ◆ 担当医師  川瀧元良 先生 他
- ◆ 外来開設日  ホームページをご覧ください。
- ◆ 対象の妊娠週数  妊娠17週から妊娠34週までの妊婦様
- ◆ ご予約方法  当院受診中の方は **受付・お電話にて** ご相談ください。
※他院にて妊婦健診や分娩を予定されている方も受けることができます。
- ◆ 費用  10,000円（税別）（胎児1人あたり）
※再検査が必要な場合は、検査毎に5,000円（税別）追加となります。

★ ご注意・その他ご案内 ★

- ・妊婦健診と一緒に受診することも可能です。
- ・予約時間の10分前には受付までお越しください。
- ・他院受診の方は問診票を事前にご記入の上、お持ちください。
- ・胎児の姿勢や腹壁の厚みの影響で診断が困難な場合があります。その場合は再検査が必要となります。
- ・成長とともに出現する形態異常もあるため、当院で行っている妊娠中の定期的な精密超音波検査（およそ20週ごろと30週ごろ）が不要になるわけではありません。

胎児精密超音波検査でわかる先天異常

妊娠初期では赤ちゃんにむくみ（NT）がないか、鼻骨や顔面、耳の位置などのチェックを中心にを行います。中期胎児ドックでは赤ちゃんの脳や心臓の構造・手足の指や口唇、目の水晶体チェックまで30項目以上にわたる検査項目があり、後期胎児ドックでは脳のしわのでき方といった大脳皮質の発達もチェック。赤ちゃんに異常が疑われる場合にはさらに詳しい検査に進みます。妊娠中期胎児精密超音波検査は、妊娠18週以降であれば、いつお受けになっても構いません。妊娠末期（妊娠28週以降）になると、部分的に胎児の観察がやや困難になる一方で、より細かい構造を確認することも可能になります。胎児の成長とともに起こる変化や、新たに生じた問題がないかを確認することで、より安心を深めて出産に臨むことができます。当院の胎児精密超音波検査は、ISUOG(国際産婦人科超音波学会)のガイドラインに示された観察項目に則って行われます。赤ちゃんに不安をかかえている方、担当医に気になる点を指摘された方、上のお子さんに問題があった方など、どなたでも受けていただくことができます。



川瀧元良 先生

1956年 愛媛県宇和島市近郊で出生
 1976年 神奈川県立子ども医療センターが日本で2番目の小児病院として発足
 1981年 秋田大学医学部卒
 1981-86年 秋田中通病院で内科、小児科、救急医療を研修
 1986-89年 神奈川県立子ども医療センター循環器科で小児循環器医療を研修
 1990年 同センター新生児未熟児科医員。
 1992年 神奈川県立子ども医療センターに日本初の周産期センター発足
 1994年 同センター新生児科医長。
 1998年 カナダ（トロント小児病院）、イギリス（King's College Hospital）に留学胎児診断技術、スクリーニングのシステムを学ぶ。
 帰国後、胎児診断からNICUにおける全身管理、手術治療までのシステム確立。
 2012年 神奈川県立子ども医療センター 新生児科部長。
 2014-18年 東北地方における胎児診断普及を目指して東北大学産婦人科に在籍
 2019年 神奈川県立子ども医療センター 新生児科に復帰
 2022年 神奈川県立子ども医療センター 定年退職
 神奈川県立子ども医療センター新生児科非常勤医師、東北大学産婦人科非常勤講師、日本胎児心臓病学会、日本胎児治療学会、周産期循環管理研究会、胎児食道研究会、胎児MRI研究会、北日本遠隔胎児セミナーの立ち上げにかかわり、各学会の会長を歴任
 コロナ流行前は台湾、中国大連、インドネシアを訪問し胎児診断普及を支援。
 コロナ流行後は、遠隔で胎児診断のサポートを継続している。
 現在は胎児食道研究会会長、胎児MRI研究会代表世話人、日本胎児治療学会幹事